

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- ①言葉の特徴や使い方に関する事項 概ね良好な結果であった
- ②情報の扱い方に関する事項 概ね良好な結果であった
- ③話すこと・聞くこと やや課題が残る結果であった
- ④書くこと やや課題が残る結果であった
- ⑤読むこと 概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ② 選択式 概ね良好な結果であった
- ③ 短答式 やや課題が残る結果であった
- ④ 記述式 やや課題が残る結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・3二の設問に関しては最も無解答率が高く、1の二の設問は最も正答率が低い結果となった。どちらも問題型式が記述式であり、複数の条件を満たしながら解答する設問であった。
- ・最も正答率が高かったのは「読むこと」の領域で、目的を意識して中心となる言葉を見つけて要約する設問であった。

分析

解答時間が足りなかったと答える児童が全体の4割ほどおり、後半の2問の無解答率が全国平均と比べて高くなっている。時間配分に課題があり、見通しを持って解く力、最後までやり遂げる力の育成が必要である。

「書く」領域で全国や大阪府と比べて低い。自分の意見をまとめて表現することや、話の内容を理解するとともに、話し手の考えと自分の考えを比較することが苦手である。今後は「自分自身で考えて書く」学習を今以上に学校で取り組んでいく必要がある。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|---------|-------------|
| ①数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ④データの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問は1(1)の「変化と関係」の領域で伴って変わる二つの数量の変化をと読み取る設問であった。
- ・もっとも正答率の低かった設問は2(4)の「図形」の領域で三角形の底辺と面積との関係を基に大小を判断し、理由を記述する設問であった。
- ・もっとも無解答率の高かった設問は4(3)の「データの活用」の領域で複数の棒グラフを読みとり違いを記述する設問であった。

分析

全体的に概ね良好な結果であった。算数の授業内容への肯定的意見も非常に高く結果に表れている。

「数と計算」の領域が特に良好な結果であり基礎的な学習が積み上がり定着している児童が多いと考えられる。一方で「図形」領域で全国平均と比べてやや低い数値であった。

全体的に無解答率は低く、難しい問題でも最後まで諦めずに考えていることが結果から分かる。普段の授業の中で、言葉や数を用いて自分の考えをノートに書いたり筋道をたてて説明する論術の能力を培っていく必要がある。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・今年度の平均正答率は国語算数ともに、前年度を下回る結果となった。国語、算数ともに条件を満たしながら記述する問題の課題が大きい。
- ・無解答率は低いことから問題には前向きに取り組むことはできているが考えを整理して文章を書く事には苦手意識があることも読み取れる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・国語に比べると算数の方が学力高位層が多い。
- ・学力低位層が増加している。また、エンパワー層の割合は全国よりも下回っており、今後もエンパワー層、学力低位層を意識した取組みが必要である。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

書く力の向上に向けて

- ・書く力（記述力）の向上にむけて「主体的な学びの中でつながっていく子どもたちを育てる」を研究テーマに論理的な文章を書く力の育成をしてきた。
- ・「伝えたいこと」に対して自分の感想・意見をもつ力を養うために継続して語彙を増やす取り組みを行っていく。また、指導内容を整理した上で指導方法を追究していく。
- ・学習用語を整理し、読みの系統指導で読む力を育てていく。
- ・休日の課題で全学年 100 字程度の作文を書く取組みをしていく。
- ・家庭学習週間を設定し、宿題の習慣化や自主的に調整学習する力をつけていく事を目的に、家庭と学校と連携していく。

自ら伝える力

- ・言語活動を大切にし、定着すべき基礎言語を獲得させていく。
- ・太田っ子スクールスタンダードを活用し、学校全体で一貫した指導ができるように引き続き努めていく。
- ・主体的に取り組む事ができるような場を委員会活動での発表や異学年交流で数多くつくっていく。
- ・間違いを認め合える、安心できる集づくりをおこなっていく。
- ・課題に諦めずに取り組むことができるように、ペア・グループ交流などの活動を中心に据えるような授業展開をしていく。違いや良さを感じ取り、新たな視点に気づく事ができるような練り上げ、学び合いの時間を設け取り組んでいく。

国語好き・算数好きの児童を育てる

- ・計算力を高めるためにスキルアップタイムを継続して基礎学力の定着を図っていく。
- ・子どもたちが考えたい課題の設定を行い、「できた。」「わかった。」を実感できる授業づくりをしていく。
- ・ブックトラック等で各学年の廊下に本を置くなどし、本に触れる機会・読書に取り組む時間等を意識的に増やしていく。